

夏泊・長尾鼻コース



長尾鼻は、中国山地付近での火山活動でおよそ160万年前に流れ下った溶岩でできています。日本海に突き出した岬は、激しい波浪の侵食を受けて複雑な海岸地形が形成されています。岬の西側にある夏泊では、海女漁が行われています。また、その西側の青谷海岸や井手ヶ浜は、鳴り砂の浜として有名です。

溶岩の台地と長尾鼻

鳥取県東部の海岸から長尾鼻を見ると、ゆるやかな傾斜をもつ高台が続いています。この台地状の地形は、中国山地付近から流れだした比較的粘りけの小さい溶岩が冷えて固まった安山岩からできています。硬い安山岩は侵食に強く、日本海に突き出した台地状の岬を形成しました。日本海の荒波の侵食を受けた岬の周辺は、急崖をなす複雑な海岸地形となっています。このため、このあたりは、よい漁場となり、磯釣りのメッカとしても有名です。



明神崎

丸山崎

井手ヶ浜

基本コース

- ※時間は徒歩
- ①鳥取市あおや郷土館 約5分 ↓ 約200m
 - ②空浜公園 約20分 ↓ 約1400m
 - ③夏泊海岸 約1分 ↓ 約100m
 - ④安山岩露頭 約10分 ↓ 約800m
 - ⑧青谷海岸 約10分 ↓ 約700m
 - ⑨港町芦崎の八軒屋通り 約2分 ↓ 約100m
 - ⑩芦崎湊(港) 約20分 ↓ 約1300m
 - ①鳥取市あおや郷土館
- 総移動時間 約78分
全行程約4km

夏泊コース

- ※時間は徒歩
- ③夏泊海岸 約1分 ↓ 約100m
 - ④安山岩露頭 約1分 ↓ 約50m
 - ⑤夏泊神社 約5分 ↓ 約200m
 - ⑥漁村公園 約10分 ↓ 約350m
 - ⑦漁村のまちなみ 約5分 ↓ 約300m
 - ③夏泊海岸
- 総移動時間 約22分
全行程約1km

凡例

- トイレ
- 駐車場
- 道順
- 撮影スポット
- 基本コース
- 夏泊コース



美しい自然を守るため、砂や動植物は観察するだけにしましょう。危険な場所や立ち入り禁止の場所には入らないようにしてください。持って帰るのは楽しい思い出と写真、そして地元のおみやげ!!

みどころいっぱい夏泊・長尾鼻

① 鳥取市あおや郷土館



常設展示には山陰海岸ジオパークの展示コーナーがあり、青谷町の見どころ、因州和紙や海女漁、鳴り砂などを、資料や映像で紹介しています。また企画展示室では絵画展や写真展なども開催されます。
(問)0857-85-2351/9~17時(入館は16時30分まで)/休館日:月曜日・祝日の翌日・年末年始

② 空浜公園



高台にあり、日本海と青谷の町並みを見渡すことができます。砂丘地には青谷の町並みが広がり、その南の低地は田園地帯となっています。かつて内湾であったこの低地が、砂丘の発達により海と隔てられ潟湖(ラグーン)となり、さらにそれが干上がって湿地(後背湿地)となったことが想像されます。

③ 夏泊海岸



長尾鼻の西岸の岩石海岸で、風化・侵食により岩が削られ、獅子が口を開けた姿に似ている「獅子岩」など、様々な形の岩が見られます。海女漁が行われている海岸としても有名です(ジオコラム①参照)。長尾鼻は安山岩溶岩でできた岬で、一帯は西因幡県立自然公園に指定されています。

④ 安山岩露頭



長尾鼻をつくる岩石は、約160万年前に中国山地付近から流れ下ったもので、鳥取市青谷町や湯梨浜町に広く分布しています。板状に割れ目(板状節理)が発達していることが特徴で、このような割れ目は、一般に、溶岩が固まりながら流れようとすることによって生じると考えられています。

⑤ 夏泊神社



夏泊漁港にある神社です。いつ創建されたかは不明ですが、恵比須(地元ではオービスサン)と称し、古くから崇められてきました。神社には、江戸時代末期にこの地で活躍した石工「川六」による、天保十年(1839年)の狛犬と、弘化四年(1847年)の鳥居があります。

⑥ 漁村公園



夏泊の漁村の高台にある公園です。青谷町の海岸を見渡すことができ、晴れた日には大山や島根半島も見ることができます。

⑦ 漁村のまちなみ



焼き杉でしつらえた壁や石州瓦を使用した屋根など、日本海の塩分を含んだ強風雪に強い家屋が急な斜面に立ち並びます。その間を狭い道が張り巡らされ、狭い土地と斜面をうまく利用しています。長尾鼻の板状節理が発達した岩石を組み上げた美しい石垣も見ることができます。

⑧ 青谷海岸



西の井手ヶ浜とともに、鳴り砂の浜として有名です。白い砂浜を、足を滑らせるようにしながら歩くと、「キュッキュ」と音を鳴らしながら歩くことができます。(ジオコラム②参照)

⑨ 港町芦崎の八軒屋通り



江戸時代、八軒屋と呼ばれた北前船主(廻船問屋)が軒を連ねていた港町芦崎のメインストリートで、船主集落の町割りをよく残しています。通りに面している湊神社には、当時の芦崎の船主たちが奉納した灯ろうや狛犬があります。こうした芦崎の町並みは、「日本遺産北前船寄港地・船主集落」の構成文化財に認定されています。

⑩ 芦崎湊(現青谷港)



河口を利用した天然の港で、西側の丸山(標高69m)によって北西の風がさえぎられ、川岸に船舶が停泊しやすい条件を備えています。安土桃山~江戸初期には、鹿野城主亀井が、「朱印船貿易」の本拠地長崎との海上連絡に芦崎湊を使用、その後も、芦崎は港町として明治末ごろまで繁栄し、今も船の積み荷を運んだ津出し路地などが残っています。

おすすめ…長尾鼻灯台



灯台の高さ13mですが海面からは約68mと高く光の光達距離はおよそ21.5海里(約40km)にも及びます。長尾鼻の東と西で潮流が異なり魚の棲家も多いためこの辺りは昔から魚介類が豊富に取れました。夏泊漁港の入港の指標として昭和2年に建てられて以来日本海を行き交う船の航海の安全を見守っています。

おすすめ…夕陽が丘展望広場



長尾鼻の先端近くにある展望台です。ここからは、青谷町の海岸線や美しい夕日はもちろん、条件がよければ、大山や島根半島、その沖合に隠岐の島が見えることがあります。また、長尾鼻には、毒竜の伝説があり、毒竜の通り道と言われる赤と黒の模様岩が岩肌に続いているのが見えます。

ジオコラム①

夏泊の海女漁

夏泊では海女漁が行われています。夏泊の海女漁は、400年以上前、豊臣秀吉の朝鮮出兵に伴い、鹿野城主亀井茲矩の水先案内人を務めた漁師助右衛門の妻が、筑前の国から伝えたとされています。夏泊の海女漁が最も盛んだったのは1950年代で、30人程度の集団でワカメなどを採っていました。収穫したワカメは「しぼりワカメ」と呼ばれる伝統の方法で加工されていました。



海女漁の様子(再現)

クイズの答え 貝殻節

貝殻節の歌碑が建っています。
♪ 何の因果で貝がらこぎなるうた かわいやのかわいやの 色は黒なる身はやせると、当時の労働歌として歌い継がれています。

ジオコラム②

なすな 鳴り砂の浜

鳥取市西部の青谷町は、全国有数の鳴り砂の浜(青谷海岸、井手ヶ浜、水無瀬浜)を持つ地域として知られています。これらの砂浜が白く美しいのは、砂粒に無色透明の石英が多く含まれるからです。平成27(2015)年9月には、この地で全国鳴り砂サミットが開催されました。

鳥取県東部地域の良質な鳴り砂の分布



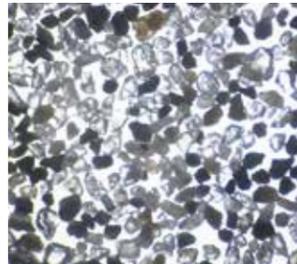
鳥取砂丘検定公式テキストブック編集委員会編「鳥取砂丘まるごとハンドブック」(平成24年)を簡略化

鳴り砂の特徴

- ①砂粒の大きさがよく揃っている
- ②砂粒の大部分が石英である
- ③微粒状の砂や泥、汚濁物質が混入していない
- ④砂が波でよく洗われ、表面がよく磨かれている
- ⑤砂がよく乾燥している

鳴り砂は海や浜が汚染されるなどの環境の変化によって鳴らなくなってしまうデリケートなものです。

青谷海岸の鳴り砂



ジオコラム③

湧水と和紙

青谷地域をはじめとする鳥取県東部では、古くから手すき和紙「因州和紙」の生産がさかんです。特に書道・水墨画に適した画仙用紙が有名で、全国でトップクラスの生産量を誇ります。この地域では、和紙の原料となる植物(こうぞ、みつまた、がんびなど)が得られるのに加え、豊富な清流に恵まれているため、紙漉きの技術が発達しました。なぜ、青谷地域は水資源が豊富なのでしょうか?それはこの地域の山々を構成する溶岩と関係があります。溶岩の割れ目や溶岩の下の地層との境界に地下水が蓄えられ、それが湧き水として青谷にきれいな水を大量にもたらしていると考えられています。

